

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年4月1日現在

機関番号：17301

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21730339

研究課題名（和文） 保険市場における「競争」と「協調」に関する経済分析

研究課題名（英文） An Economic Analysis of Competition and Cooperation in an Insurance Market

研究代表者

大倉 真人（OKURA MAHITO）

長崎大学・経済学部・准教授

研究者番号：50346904

研究成果の概要（和文）：本研究では、「競争」と「協調」とが混在する保険市場を想定した上で、各保険会社における「競争」および「協調」戦略について、ミクロ経済学的手法を用いた分析を行ったものである。具体的な研究成果としては、（1）「競争」「協調」の両面を包含した経済モデルの構築、（2）保険市場における「競争」および「協調」の発生メカニズムの解明、（3）「競争」と「協調」が併存する現実保険市場を説明するための理論の構築、を掲げることができる。

研究成果の概要（英文）： This research analyzed an insurance market in which both competition and cooperation exists by microeconomic theory. There are mainly three contributions from this research. First, this research derived economic model including both competition and cooperation. Second, this research shed light on the mechanism how to derive competition and cooperation in an insurance market. Third, this research built the theory to explain the actual insurance market coexisting competition and cooperation.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学・商学

キーワード：保険

1. 研究開始当初の背景

1996年の保険業法改正以降、これまで「規制産業の典型」と言われてきた保険業においても、規制緩和・競争の波が押し寄せている。具体的には保険料率（価格）競争がさかんになったことや、各保険会社においてより消費者ニーズに合致した新商品の開発が活発化してきたことなどをあげることができる。

しかしながら他方において、このような潮

流は、必ずしも保険市場が競争一辺倒になったことを意味している訳ではない。例えば、保険商品知識に関する啓蒙活動や保険金詐欺のような問題については、全ての保険会社が業界団体等（生命保険協会や損害保険協会など）を通じた協調的な取り組みがなされている。

以上のように、現実の保険市場は、完全に競争的でもなければ、完全に協調的でもない。

よって、保険料率や保険商品開発の側面を協調することで「保険市場は競争的である」と評価することも、啓蒙活動や保険金詐欺に対する取り組みの側面について概観することで「保険市場は協調的である」と判断することも正しいとは言えないことがわかる。よって、各保険会社は、ある側面においては利害の対立に直面し、別の側面においては利害の一致を有しており、そしてその中で各保険会社は、ライバル保険会社と競争するのがあるいは協調するのかを個別項目ごとに選択しているのだと言える。

それゆえに、現実の保険市場の姿を明らかにするためには、具体的にどのような利害の対立および利害の一致が存在するかについて知る必要があり、またその上で、これらの利害が各保険会社の経営戦略にどのような影響を与えているのかを考察する必要があると言える。

しかしながら、先行研究においては、「競争」と「協調」を個別の項目ととらえた上で分析する傾向が強く、それは「保険学」「保険論」の分野においても例外ではなかった。1996年の保険業法改正以降、保険市場の「競争」にかかる研究は散見されるようになったが、それに加えて「協調」について言及した研究は少なく、さらに言えば「競争」と「協調」との関係に焦点を当てた研究は皆無であるのが現状であった。

2. 研究の目的

「1. 研究開始当初の背景」で示した内容をベースに、本研究担当者は、本研究開始前より、いくつかの「競争」と「協調」にかかる研究を実施してきた。例えば、保険市場における啓蒙活動という名の「協調」とマーケットシェア争いという名の「競争」が同時に存在する状況における各保険会社の経営戦略についての研究、民営化された「かんぽ生命」と「民間生命保険会社」との間における「協調」および「競争」戦略についての研究、保険金詐欺抑止活動という名の「協調」とマーケットシェア争いという名の「競争」が同時に存在する状況における情報開示戦略にかかる研究などがこれに該当する。

しかしながら言うまでもなく、現実の保険市場には、これまで研究対象とした状況以外にも「競争」と「協調」とが混在しているケースが少なくない。さらに、どのような場合に「競争」および「協調」が発生するのか、「競争」および「協調」は自発的に生じるものなのか、さらには各状況における「競争」および「協調」戦略の採用は社会的に望ましいことなのか、などの点については不十分な研究にとどまっていた。

そこで本研究では、「協調」と「競争」とが混在する保険市場を想定した上で、各保

険会社がどのような場合において「競争」あるいは「協調」戦略を採用するののかについての一般的な理論を構築するとともに、そのような戦略が社会的に望ましいものであるか否かについての評価を行っていくことを主たる研究の目的として掲げた。

3. 研究の方法

本研究は、以下の方法に沿って進められた。

まず、理論分析を実施する前段階としての基礎調査を行った。その1つとして、各保険会社が採用している経営戦略についての調査をあげることができる。各保険会社の経営戦略は多岐にわたっているが、それらはいずれも多種多様な要素が混在した外生状況を所与とした上で決定されていると考えられる。実際の経営戦略は、市場における規制の程度や情報開示制度の充実度などといった数多くの要素を勘案した上で選択されていると考えるのが自然である。このような考えに立脚した場合、経営戦略それ単独のみを外観することは、その経営戦略の本質の理解につながらない恐れがある。以上の理由から、各経営戦略が生じた背景についての考察を実施した。

次に、経済理論モデルの構築を行った。具体的には、以下の4つのステップによってモデルの構築が行われた。

第1のステップとして、現実をどのような形で経済理論モデルとして描写するかについての検討が行われた。経済理論モデルと一口にいても、その種類は多種多様であり、また言うまでもなく、現実の保険市場を検討する上で、最も適切なモデルが用いられなければならない。そこで、関連すると予想される文献のレビューを通じて、どのような経済理論モデルを用いるのが最も適切であるのかについての吟味を行った。

第2のステップとして、第1のステップで検討された経済理論モデルをベースとした上で、オリジナルの経済理論モデルの構築に着手した。その際、「競争」と「協調」が同時に包含されているという点を特徴として考慮するだけでなく、「競争」と「協調」とが、「保険市場」にて生じているという点をモデルにて適切に描写することを念頭に置いた上で作業を進めた。

第3のステップは、構築された経済理論モデルの操作（均衡の導出）などに充当された。いくつかの場合において、当初構築したモデルの複雑性等を理由に（望ましい）結果が導出できないなどのケースもあったが、いくつかの仮定をおいたり、状況描写の方法を若干変更したりするなどして対処した。

第4のステップでは、得られた結果をもとにした現実的インプリケーションの導出が行われた。特に本研究は、「競争」と「協調」

とが「保険市場」にて生じているというケースを取り扱ったものであるため、これら3つを主要なキーワードとした上で、現実を上手く説明できるようにするためのモデルの精緻化等の作業を行った。

また上記のステップを経て作成された研究成果は、適宜ディスカッションペーパー等の形でまとめられた。このディスカッションペーパー等は「本研究の中間報告書」として位置づけられるものであり、学会発表等の場で用いることでさらなる理論の精緻化に貢献するとともに、本研究の成果を社会に還元するという貢献の一助としての役割を果たした。

また最終的には、学会等から得られたコメントなどをもとにモデルの改良等を行いつつ、最終的には海外の審査制学術雑誌への刊行を目指した。刊行したディスカッションペーパーのうちいくつかについては、本研究期間内において刊行が実現したが、別のいくつかについては、未だディスカッションペーパーの段階でとどまっている。よって、これらの論文の刊行については、研究期間終了後における課題として残されている。

4. 研究成果

本研究は、保険市場における「競争」と「協調」をミクロ経済学的手法によって明らかにしたものである。これらの検討等によって、保険市場における「競争」および「協調」にかかるメカニズムについて明らかにするとともに、その特徴等を導出することができた。

そして本研究における分析によって得られた研究成果の貢献については、以下の3点にまとめることが可能である。

1 つめとして、本研究は、ミクロ経済学的手法を用いた分析を実施したものである点を掲げることができる。研究領域にて分類した場合、本研究は「保険論」「保険学」に属するものとなる。しかしながら、伝統的に「保険論」「保険学」の分野においては、保険の「固有性」(保険商品、保険会社、保険産業、保険市場などにおいて特徴的に有する要素)に関する研究が多く、それゆえに、「保険論」「保険学」での研究成果が他の作業形態や研究領域で生かされることが相対的に少ない傾向にある。それに対して本研究は、ミクロ経済学的手法を用いた研究であることから、より広域的な研究領域(たとえば「産業組織論」「応用ミクロ経済学」「経営戦略」などの領域)に対してもインパクトを与えるものとなっている。換言すれば、本研究の成果をより広域的な研究領域において生かすことができるものとなっており、ひいては本研究において実施した各結論について、様々な角度からの拡張等が行うことが容易であると評価可能である。

2 つめとして、「競争」と「協調」とが同時に存在する保険市場を想定した上で分析・検討を行った点を掲げることができる。先にも述べたように、「競争」および「協調」を個別的に取り扱った研究は存在するものの、この2つの要素が同時に存在していることを前提とした研究についてはほとんど見られない。その意味において、本研究は斬新性を有したものであるとともに、より現実的な保険市場を想定したものであると評価することができる。

3 つめとして、本研究において、様々な場合における保険市場での「競争」および「協調」にかかる特徴等を明らかにしたが、これらの研究成果は、「社会的に見て望ましい保険市場のあり方」を論じるための材料となりうることを挙げることができる。さらにこのことは、「社会的に見て望ましい保険市場」を創設・維持することを目的とする監督官庁(金融庁など)が実施する保険市場規制等を考える際にも無視できないインパクトを与えるものと思われる。特に、市場規律に委ねるだけでは社会的に望ましい結果が出現しない状況において、どのようにすれば社会的に望ましい結果を引き出すことができるかを考える際に、本研究成果は少なからず有効であると考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

- ① Okura Mahito, The Vertical Differentiation Model in the Insurance Market, International Journal of Economics and Business Modeling, 査読有, Volume 1, Issue 2, 2010, pp.12.-14
- ② Okura Mahito, An Economic Analysis of 'Explanation Investment' in the Insurance Market, IUP Journal of Risk and Insurance, 査読有, Volume 8, Number 2, 2011, pp. 7-17
- ③ Okura Mahito, An Economic Model of Simultaneous Purchasing of Both an Insurable Asset and Insurance Coverage, Discussion Paper, Faculty of Economics, Nagasaki University, 査読無, 2011-6, 2011, pp. 1-8
- ④ Okura Mahito, An Economic Analysis of Cooperative Training Investments for Insurance Agents, Discussion Paper, Faculty of Economics, Nagasaki University, 査読無, 2012-2, 2012, pp. 1-12

[学会発表] (計4件)

- ① 大倉真人「保険市場における「商品説明投

資」に関する経済分析－垂直的差別化市場モデルを用いた分析－」損害保険研究会、2009年12月18日、損保会館

② Okura Mahito, “The Vertical Differentiation Model in the Insurance Market,” 2010 World Risk and Insurance Economics Congress, 2010年7月27日、Singapore Management University (シンガポール)

③ 大倉真人「保険経営者の賃金体系に関する経済分析」保険学セミナー、2011年6月11日、アークホテル大阪

④ Okura Mahito, “The Wage Schedule of a Risk Averse Manager in an Insurance Market,” Asia-Pacific Risk and Insurance Association 2011 Tokyo Conference, 2011年8月1日、明治大学

[その他]

ホームページ等

「5. 主な発表論文等」の雑誌論文のうち、③および④については、以下のサイトよりダウンロード可能である。

<http://www.econ.nagasaki-u.ac.jp/introduction/discussion.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大倉 真人 (OKURA MAHITO)
長崎大学・経済学部・准教授
研究者番号：50346904